

農作物病害虫発生現況情報（6月） 水稻編

1 ばか苗病

(1) 6月中旬（6/13～24）の巡回調査（県内148地点）では、1圃場で発生が確認された（表1）。

表1 本田におけるばか苗病発生状況

地域	調査圃場数	発生圃場数	(参考)	
			H30発生圃場数	H29発生圃場数
県中	56	1	0	0
県北	26	0	0	0
県南	54	0	0	2
遠野	12	0	0	0
全県	148	1	0	2

2 いもち病

(1) 6月上旬の調査で、県南部において、取置苗に発生が確認された（令和元年6月11日発表 病害虫防除速報No. 5を参照）。

(2) 6月中旬の巡回調査では発生は確認されなかった。

(3) 基準圃場（北上市成田、無防除）では、発生は確認されていない。

3 イネミズゾウムシ

(1) 6月中旬の巡回調査（県内148地点）では、全県の発生圃場率は平年よりやや低かったが、岩手、胆江地域では、食害程度（中以上）が高かった（図1、2）。

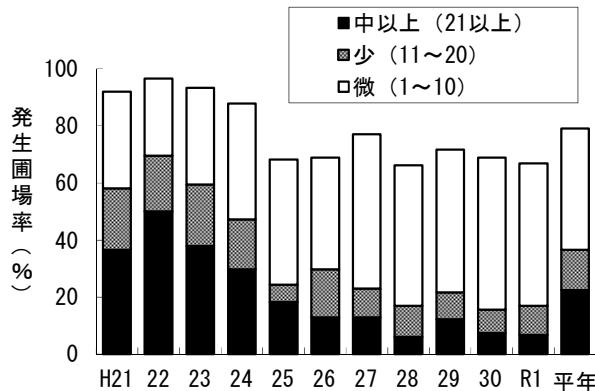


図1 イネミズゾウムシ発生圃場率の年次推移（6月中旬、食害度）

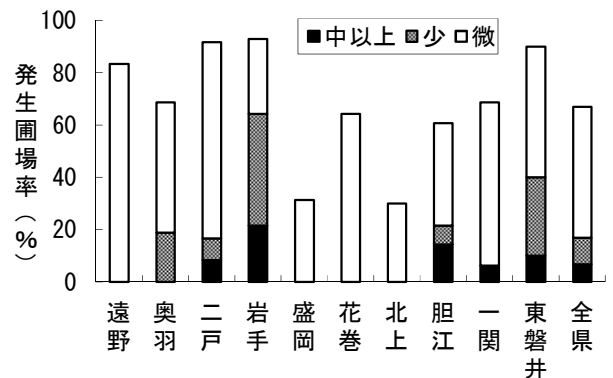


図2 イネミズゾウムシ地域別発生圃場率の比較（6月中旬、食害度）

4 イネドロオイムシ

(1) 6月中旬の巡回調査では、産卵圃場率は平年より低かった（図3）。

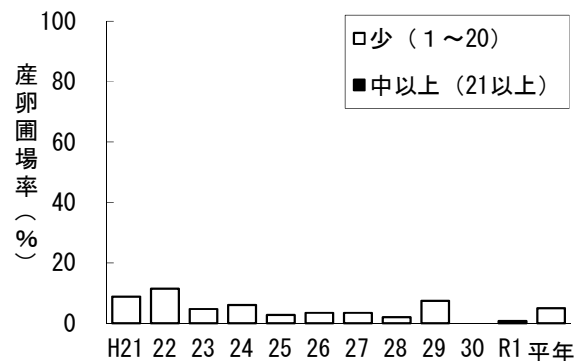


図3 イネドロオイムシ産卵圃場率の年次推移（6月中旬、程度は25株当たり卵塊数）

5 斑点米カメムシ類

- (1) 基準圃場（北上市成田、イタリアンライグラス）におけるすくい取り調査では、6月第3半旬にアカスジカシカメ成虫の発生ピークがみられた（図4）。
- (2) 6月中旬の巡回調査における水田畦畔すくい取り調査（県内39地点）では、斑点米カメムシ類の発生圃場率は平年並であった（図5）。

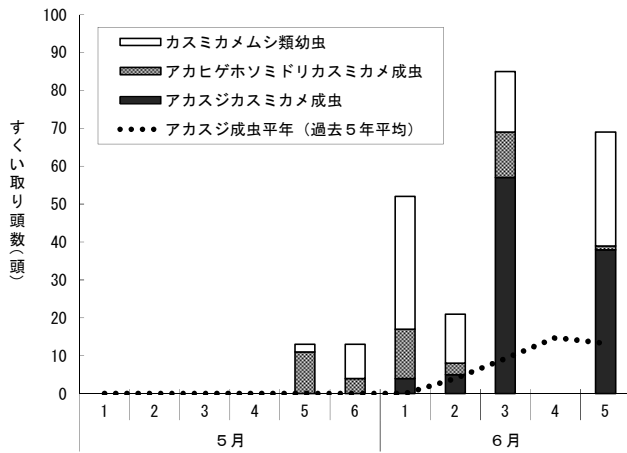


図4 基準圃場（北上市成田、イタリアンライグラス）における斑点米カメムシ類すくい取り頭数（往復20回振）

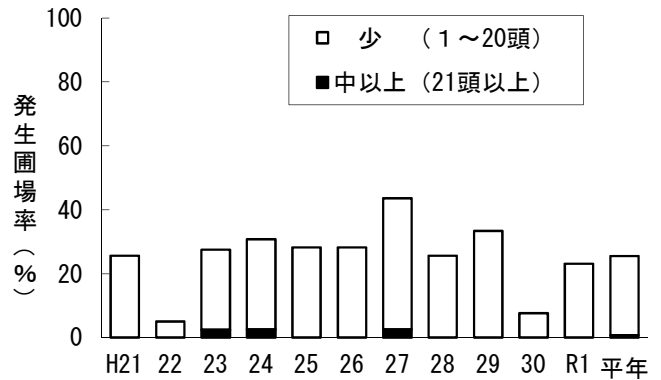


図5 斑点米カメムシ類発生圃場率の年次推移（6月中旬、水田畦畔、往復20回振）

6 コバネイナゴ

- (1) 6月中旬の巡回調査における水田畦畔すくい取り調査（県内39地点）では、発生圃場率は平年並であった（図6）。

7 フタオビコヤガ（イネアオムシ）

- (1) 6月中旬の巡回調査における本田すくい取り調査（県内39地点）では、幼虫の発生は確認されなかった（図7）。

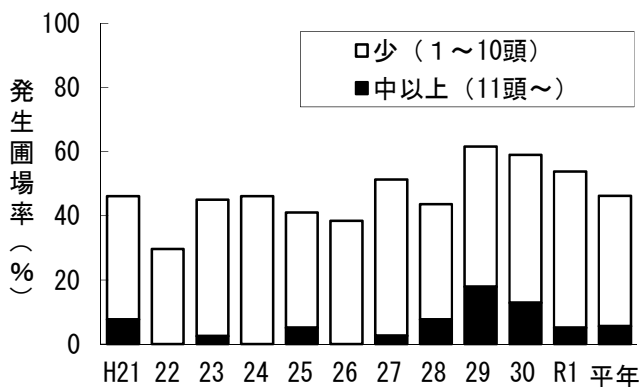


図6 コバネイナゴ発生圃場率の年次推移（6月中旬、水田畦畔、往復20回振）

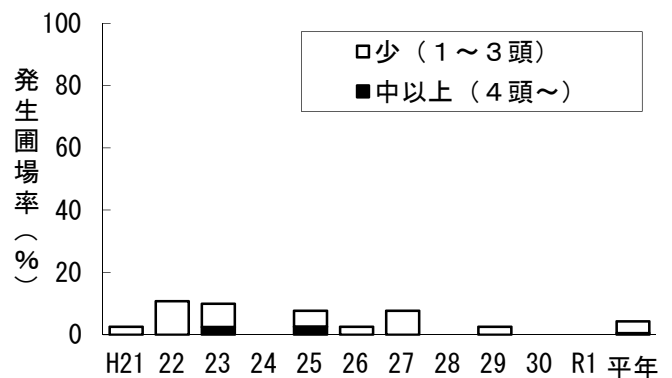


図7 フタオビコヤガ（イネアオムシ）幼虫発生圃場率の年次推移（6月中旬、本田、往復20回振）

農作物病害虫発生現況情報（6月） 麦 編

1 うどんこ病

- (1) 6月中旬の巡回調査では、発生は平年並みに少なかった（図2）。
- (2) 発生が見られたのは、銀河のちから（うどんこ病抵抗性：中）の1圃場のみであった。

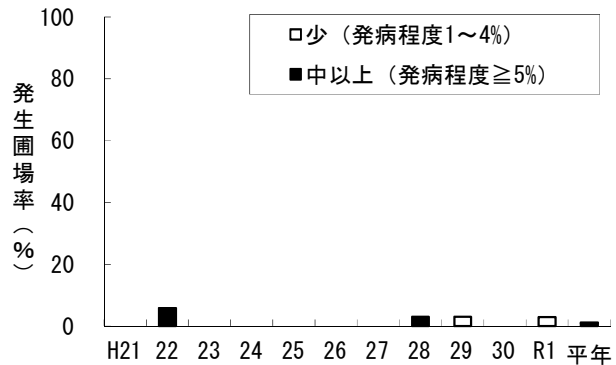


図1 うどんこ病の発生圃場率の年次推移（6月中旬）

2 赤かび病

- (1) 6月中旬の巡回調査では、発生圃場率は平年より高かった（図2）。
- (2) 地域別では、県南部で発生圃場率が高かったが、発病穂率が高い圃場は無かった（表1）。

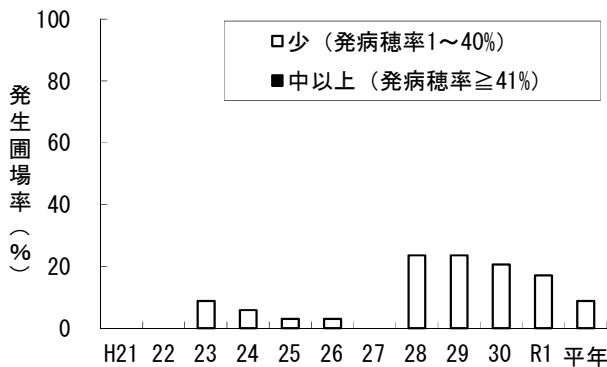


図2 赤かび病の発生圃場率の年次推移（6月中旬）

表1 地域別の赤かび病発生状況

地域	調査圃場数	発生圃場数	発生圃場率 (%)	平均発病穂率※ (%)
県北	6	0	0.0	-
県中	24	3	12.5	4.0
県南	5	3	60.0	4.0
全県	35	6	17.1	

※発生圃場における平均発病穂率（25穂調査）

3 さび病類（赤さび病）

- (1) 6月中旬の巡回調査では、発生圃場率は平年より低かった（図3）。

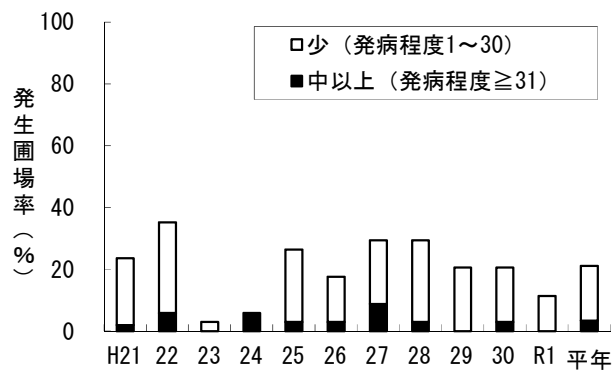


図3 さび病類（赤さび病）の発生圃場率の年次推移（6月中旬）

農作物病害虫発生現況情報（6月） りんご編

1 モニリア病

(1) 6月前半の巡回調査では、発生が確認されなかった(図1)。

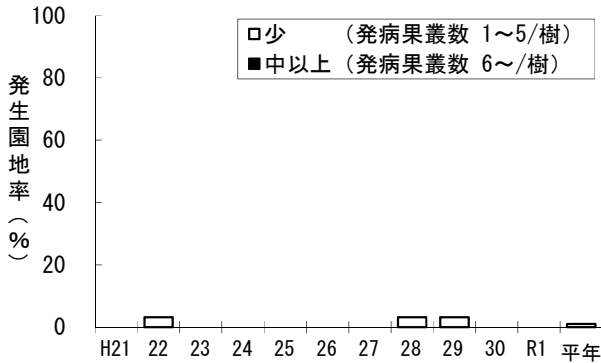


図1 モニリア病の発生園地率の年次推移
(6月前半、実ぐされ、株ぐされ)

2 斑点落葉病

(1) 6月後半の巡回調査での発生園地率は、ふじ、王林ともに平年より低かった(図2)。

(2) 基準圃場(北上市成田、スターキングデリシャス、無防除)における初発は、平年並の6月第1半旬にみられた。発病葉率は、6月第5半旬まで平年より低く推移した。(図3)

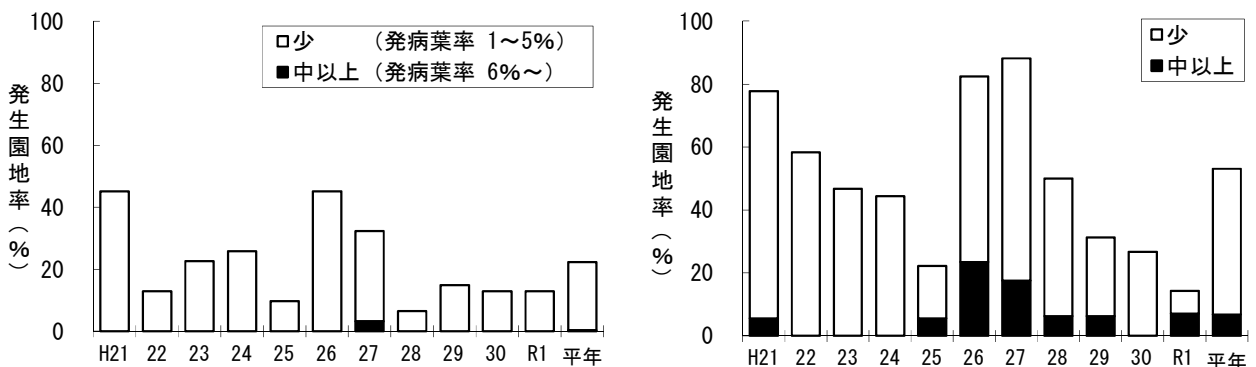


図2 斑点落葉病の発生園地率の年次推移 (左図：ふじ、右図：王林、6月後半、新梢葉)

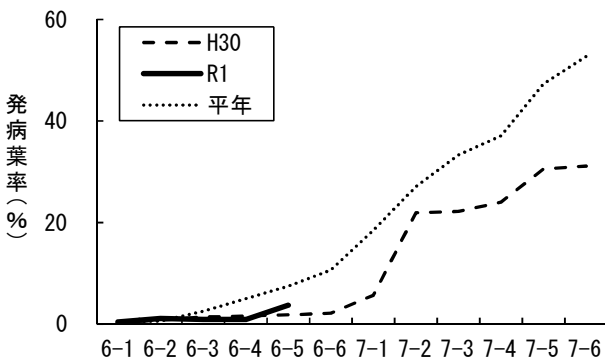


図3 基準圃場における斑点落葉病の発病葉率の推移
(月-半旬、新梢葉)

3 黒星病

(1) 6月後半の巡回調査では、県中部および県北部で発生が確認された。発生程度が高い園地はみられなかった(図4左)。果実での発生は確認されなかった(図4右)。

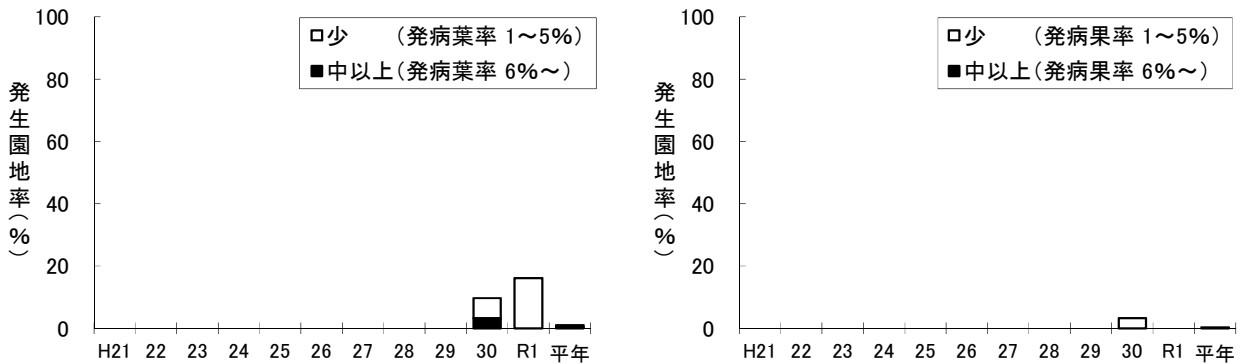


図4 黒星病の発生園地率の年次推移(6月後半、左図:新梢葉、右図:果実)

4 赤星病

(1) 6月後半の巡回調査では、発生が確認されなかった(図5)。

5 うどんこ病

(1) 6月後半の巡回調査では、一部の園地で発生が確認された(図6)。

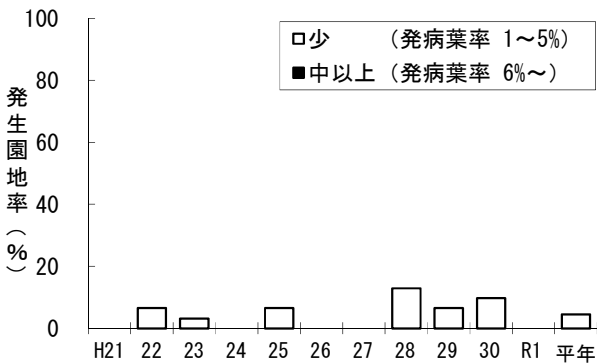


図5 赤星病の発生園地率の年次推移(6月後半、新梢葉)

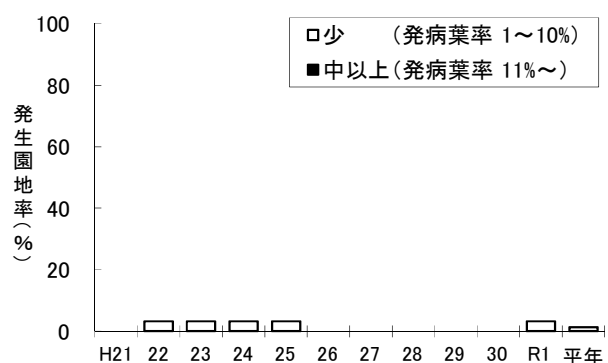


図6 うどんこ病の発生園地率の年次推移(6月後半、新梢葉)

6 褐斑病

(1) 6月後半の巡回調査では、県中部で発生が確認された(図7)。いずれの園地とも前年の多発園であった。

(2) 基準圃場(北上市成田、ふじ、無防除)では、6月第1半旬に初発生が確認された(平年の初発生は6月第3半旬)。

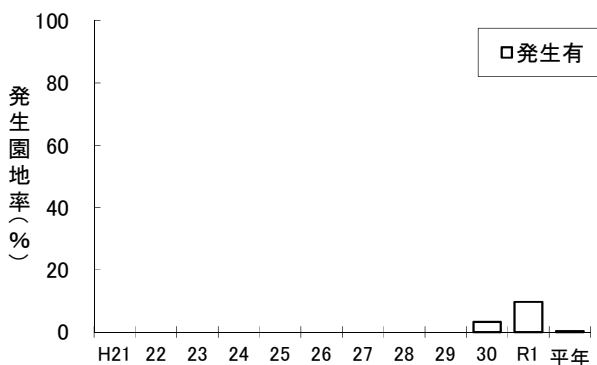


図7 褐斑病の発生園地率の年次推移(6月後半)

7 キンモンホソガ

- (1) 6月前半の巡回調査での発生園地率は、平年より低かった(図8)。
- (2) 基準圃場(北上市)における第1世代成虫のフェロモントラップへの誘殺は、平年より1半月早い6月第2半旬に発生ピークが確認された(図9)。

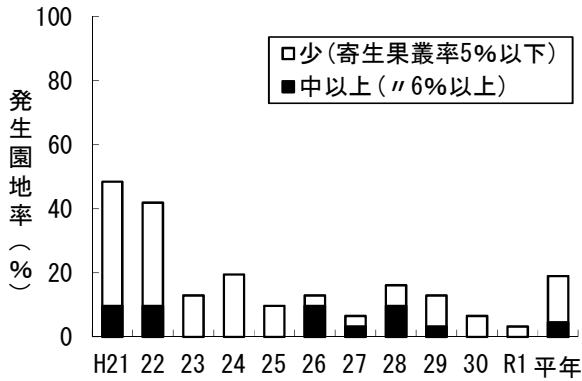


図8 キンモンホソガの発生園地率の年次推移 (6月前半)

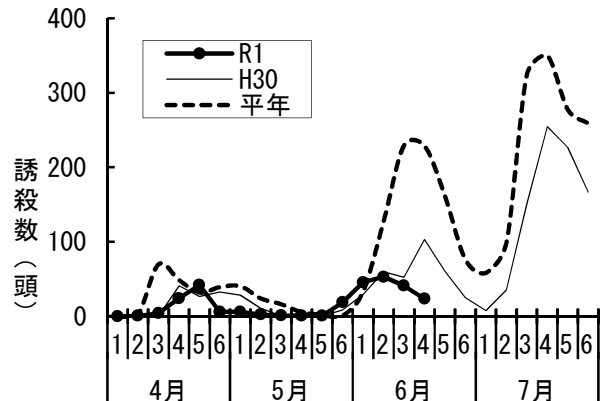


図9 基準圃場におけるキンモンホソガの誘殺状況 (北上市成田、無防除)

8 リンゴハダニ

- (1) 6月後半の巡回調査での果叢葉における発生園地率は、平年並であった(図10)。
- (2) 時期別発生園地率は、5月後半は平年より高かったものの、6月後半は平年並であった(図11)。
- (3) 地域別発生園地率は、県南部では発生程度中以上の園地が確認された(図12)。

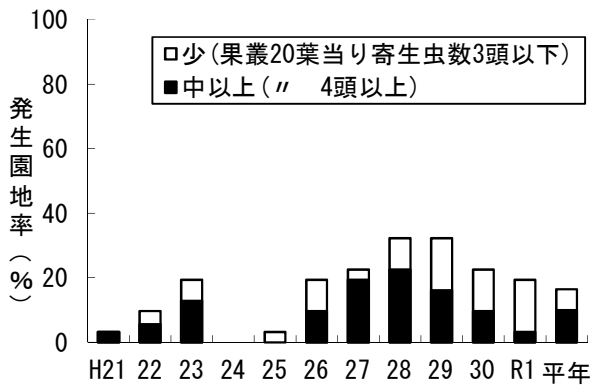


図10 リンゴハダニの発生園地率の年次推移 (6月後半: 果叢葉)

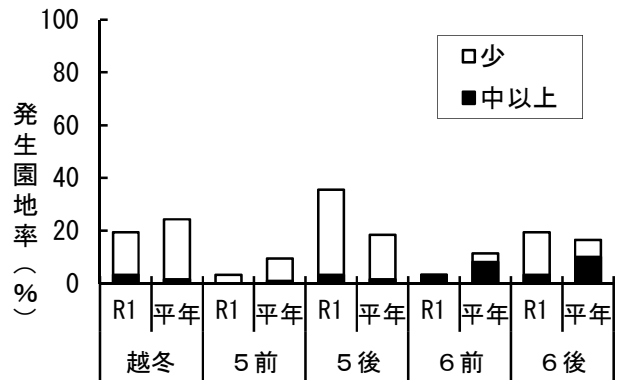


図11 リンゴハダニの時期別発生園地率の推移 (果叢葉)

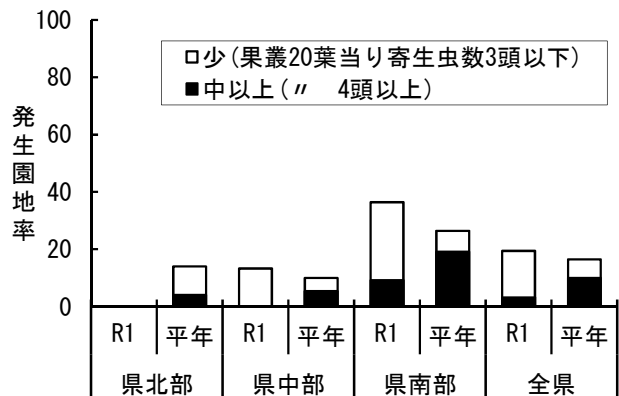
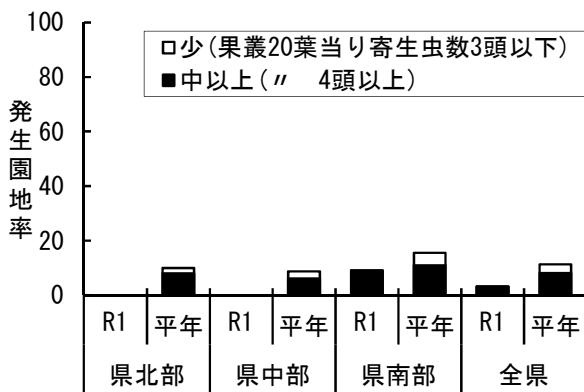


図12 リンゴハダニの地域別発生状況 (果叢葉、左: 6月前半、右: 6月後半)

9 ナミハダニ

- (1) 6月後半の巡回調査での果叢葉における発生園地率は平年並であった(図13)。
- (2) 時期別発生園地率は、概ね平年並に推移している(図14)。
- (3) 地域別発生園地率は、6月前・後半とも県北部で平年よりやや高かったものの、全県では平年並であった(図15)。

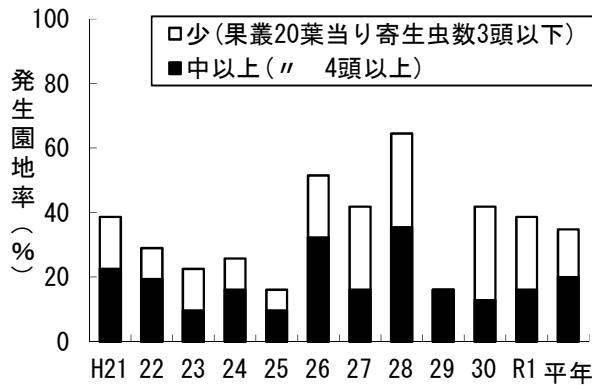


図13 ナミハダニの発生園地率の年次推移 (6月後半、果叢葉)

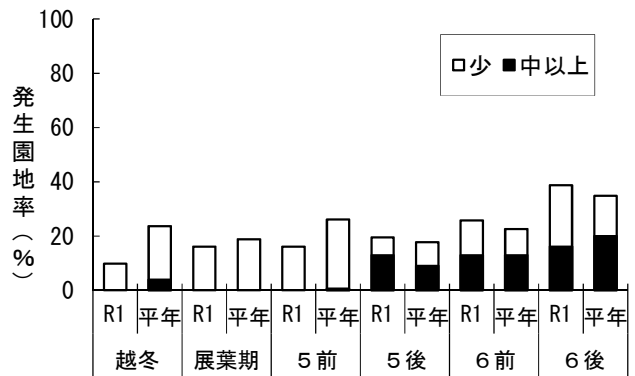


図14 ナミハダニの時期別発生園地率の推移 (果叢葉)

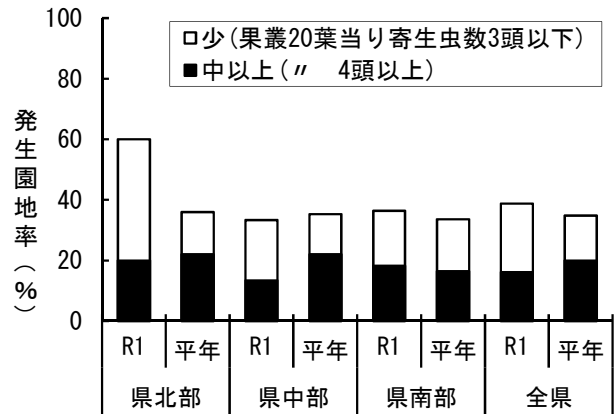
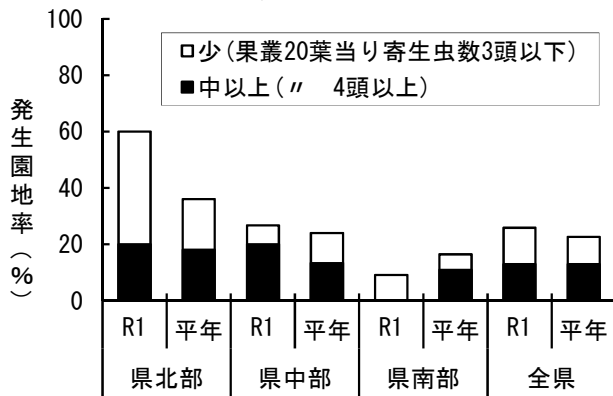


図15 ナミハダニの地域別発生状況 (果叢葉、左：6月前半、右：6月後半)

10 アブラムシ類

- (1) 巡回調査での発生園地率は、6月前半は平年並、後半は平年より低かった(図16)。
- (2) 発生が見られた種は、ユキヤナギアブラムシ、リンゴミドリアブラムシであった。

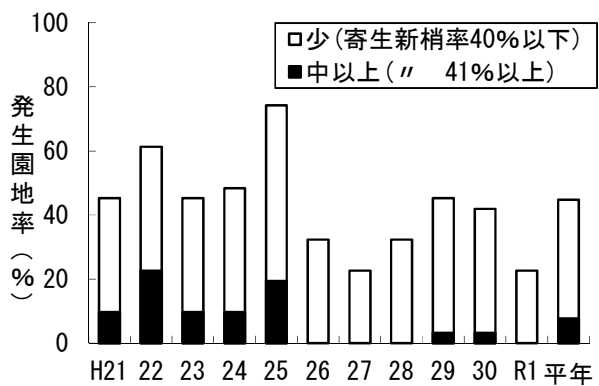
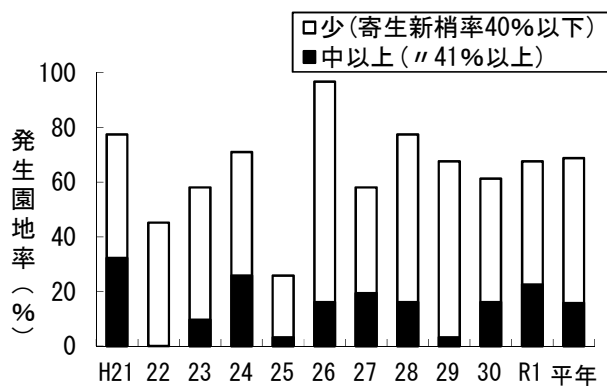


図16 アブラムシ類の発生園地率の年次推移 (左：6月前半、右：6月後半)

11 モモチョッキリゾウムシ

(1) 6月前半の巡回調査での被害果の発生は、一部園地で確認された(図17)。

12 ギンモンハモグリガ

(1) 6月後半の巡回調査における第2世代の発生園地率は、平年より低かった(図18)。

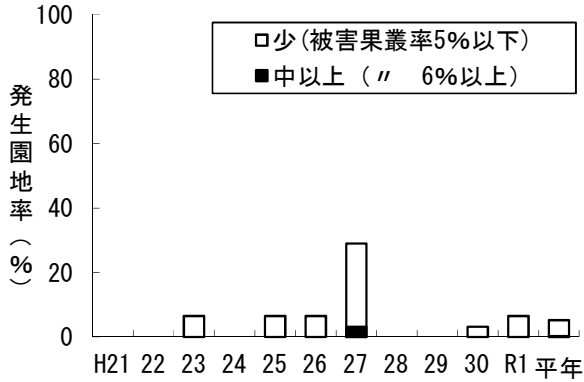


図17 モモチョッキリゾウムシによる被害果の発生園地率の年次推移(6月前半)

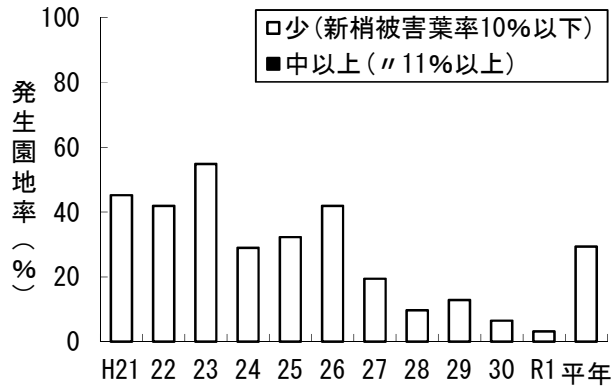


図18 ギンモンハモグリガ第2世代の発生園地率の年次推移(6月後半)

13 果樹カメムシ類

(1) 巡回調査での被害果の発生園地率は、6月前半は平年よりやや低く、後半は平年よりやや高かった(図19)。
 (2) 集合フェロモントラップへのチャバネアオカメムシの誘殺数は、基準圃場で5月第6半旬に一時平年より多く見られたものの、6月に入ると盛岡市川目ともほぼ平年並に推移している(図20)。

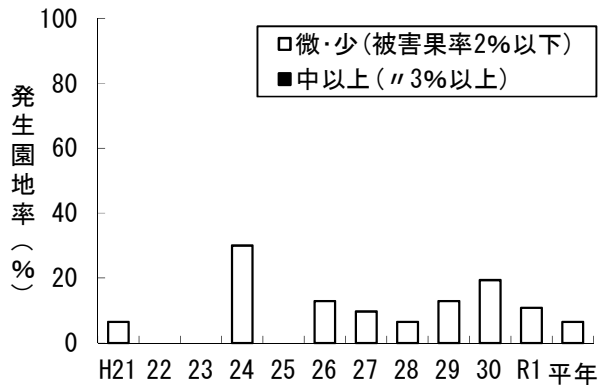
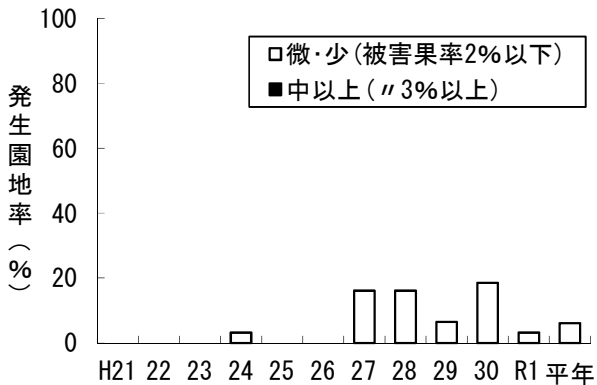


図19 果樹カメムシ類による被害果の発生園地率の年次推移
 (左: 6月前半、右: 6月後半、調査品種: ふじ)

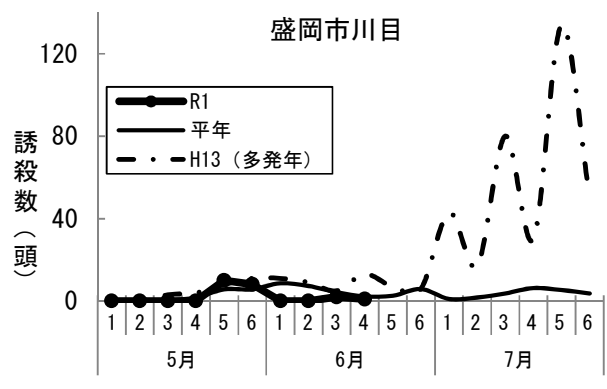
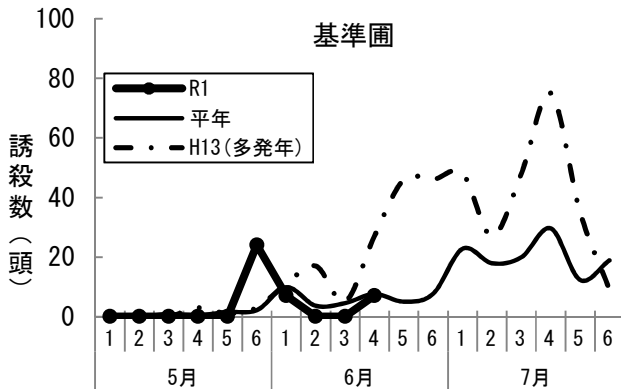


図20 チャバネアオカメムシの集合フェロモントラップへの誘殺数

農作物病害虫発生現況情報（6月）きゅうり編

1 ベと病

(1) 6月下旬の巡回調査では、発生圃場率は平年より高かった(図1)。

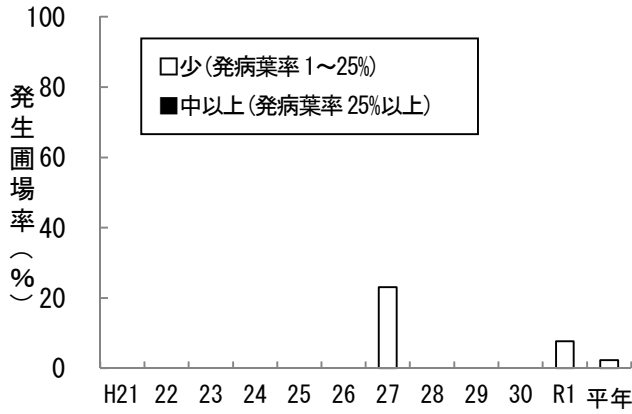


図1 ベと病の発生圃場率の年次推移 (6月下旬)

2 うどんこ病

(1) 6月下旬の巡回調査では、発生は確認されなかった(図2)。

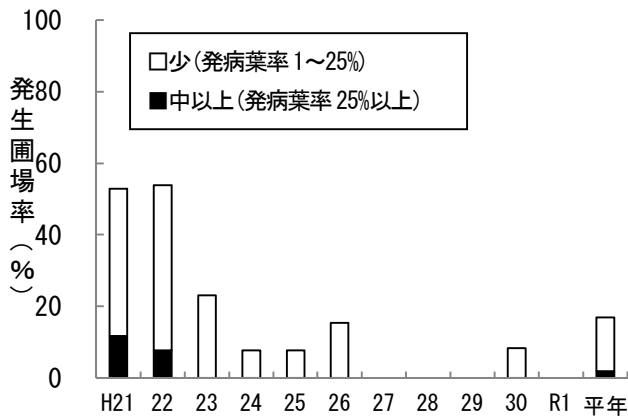


図2 うどんこ病の発生圃場率の年次推移 (6月下旬)

3 斑点細菌病

(1) 6月下旬の巡回調査では、発生圃場率は平年より高かった(図3)。

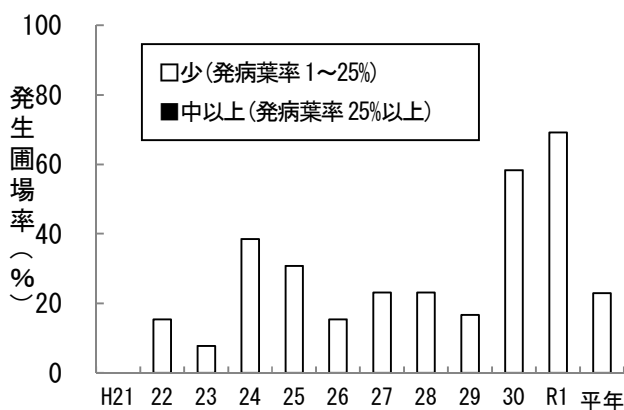


図3 斑点細菌病の発生圃場率の年次推移 (6月下旬)

4 黒星病

(1) 6月下旬の巡回調査では、発生圃場率は平年より高かったが、発生程度は低かった(図4)。

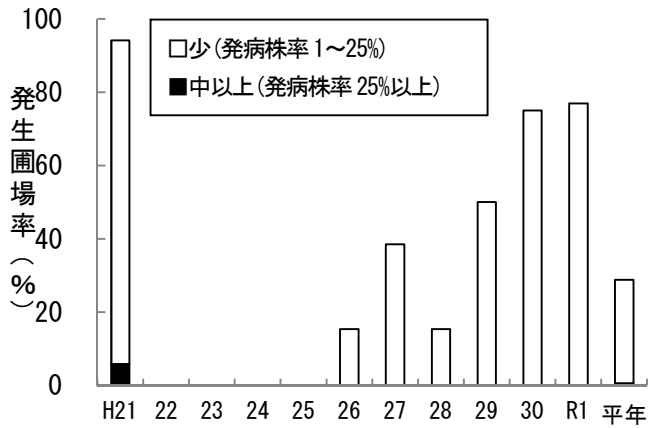


図4 黒星病の発生圃場率の年次推移 (6月下旬)

5 ワタアブラムシ

(1) 6月下旬の巡回調査では、発生圃場率はほぼ平年並であった(図5)。

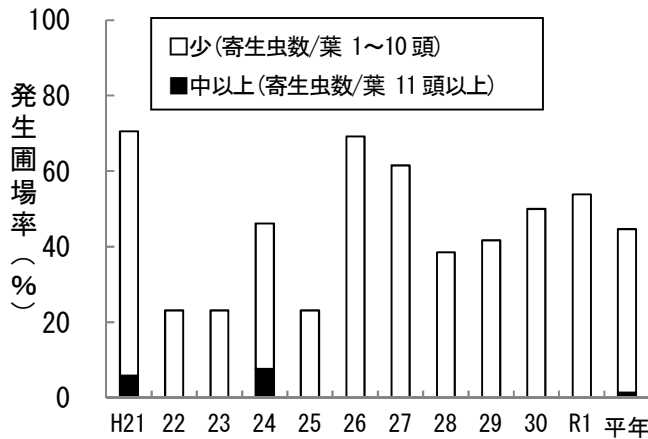


図5 ワタアブラムシの発生圃場率の年次推移 (6月下旬)

6 ハダニ類

(1) 6月下旬の巡回調査では、発生圃場率は平年より低かった(図6)。

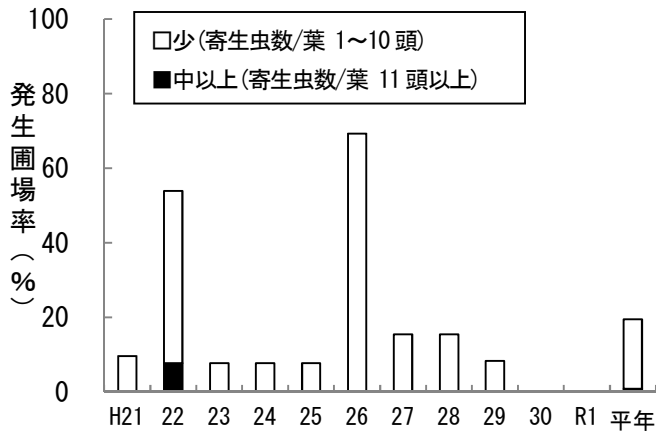


図6 ハダニ類の発生圃場率の年次推移 (6月下旬)

農作物病害虫発生現況情報（6月）キャベツ編

1 コナガ

- (1) 基準圃場（北上市成田）におけるフェロモントラップへの誘殺数は、6月以降平年並みであった（図1）
- (2) 軽米町におけるフェロモントラップへの誘殺数は、平年よりも少なかった（図2）。
- (3) 岩手町におけるフェロモントラップへの誘殺数は平年並であり、誘殺盛期もほぼ平年並であった（図3）。
- (4) 6月中旬の巡回調査では、産卵圃場率は平年より低く（図4）、幼虫発生圃場率は平年並であった（図5）。

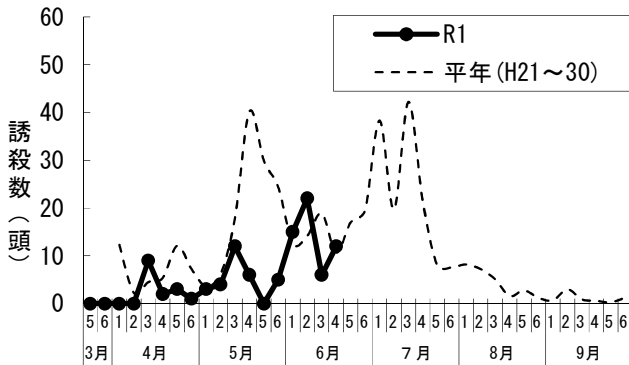


図1 基準圃場（北上市成田）におけるコナガのフェロモントラップ誘殺状況

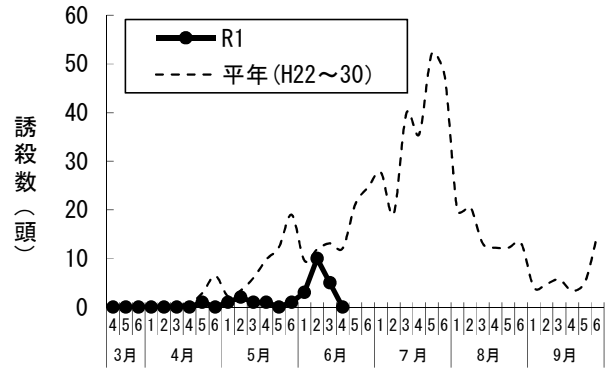


図2 軽米町におけるコナガのフェロモントラップ誘殺状況

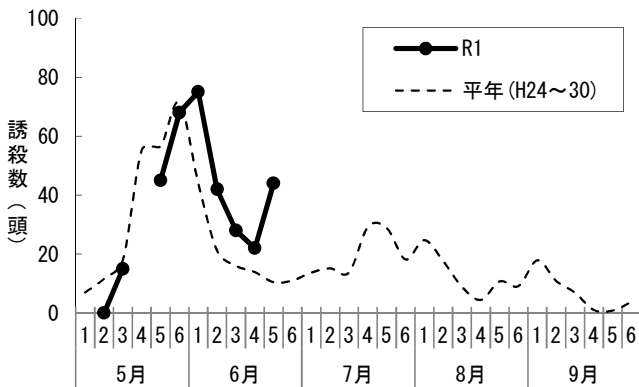


図3 岩手町におけるコナガのフェロモントラップ誘殺状況

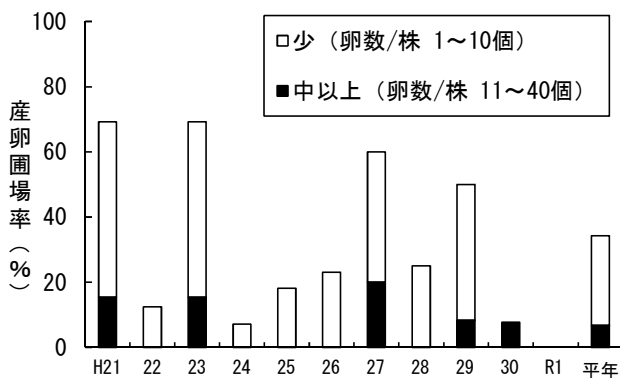


図4 コナガの産卵圃場率の年次推移（6月中旬）

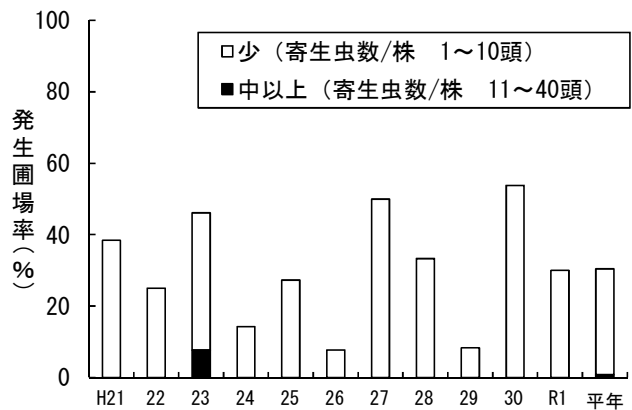


図5 コナガ幼虫発生圃場率の年次推移（6月中旬）

2 ヨトウガ

- (1) 基準圃場（北上市成田）におけるフェロモントラップによる越冬世代の誘殺盛期は6月第1半旬で、ほぼ平年並であった（図6）。
- (2) 6月中旬の巡回調査では、産卵圃場率は平年並であった（図7）。

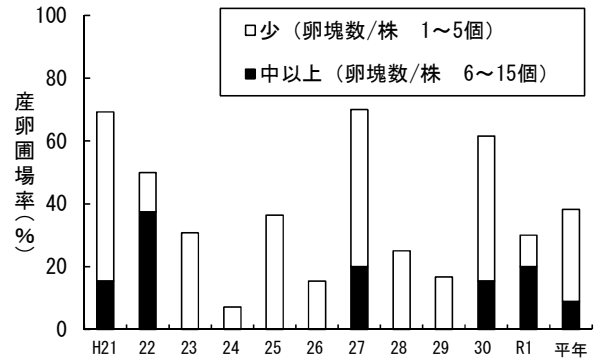
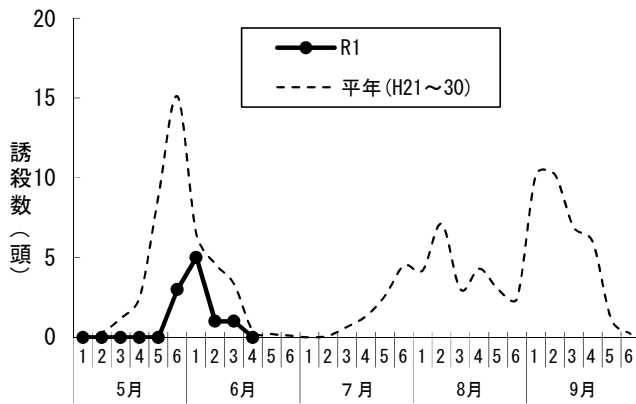


図6 基準圃場（北上市成田）におけるヨトウガのフェロモントラップ誘殺状況

図7 ヨトウガ産卵圃場率の年次推移（6月中旬）

3 ウワバ

- (1) 6月中旬の巡回調査では、幼虫の発生圃場率は平年並であった（図8）。

4 モンシロチョウ

- (1) 6月中旬の巡回調査では、幼虫の発生は見られなかった（図9）。

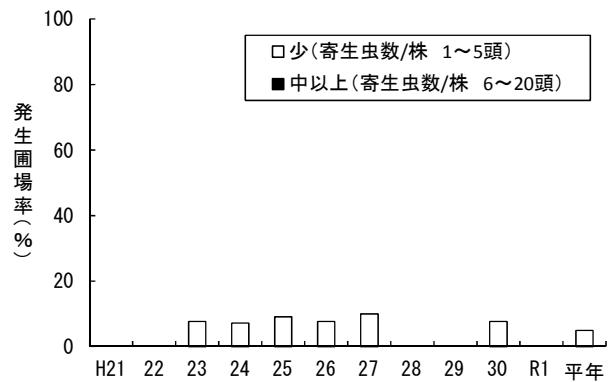
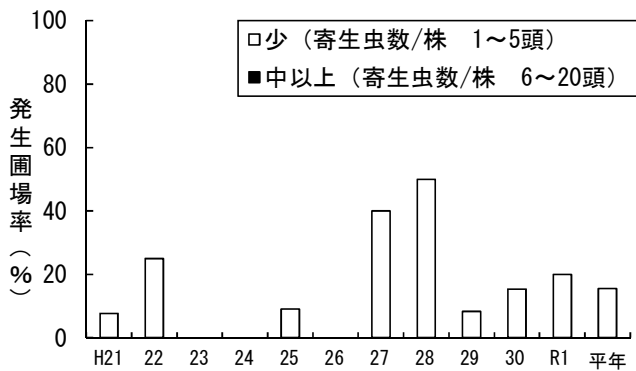


図8 ウワバ類幼虫発生圃場率の年次推移（6月中旬）

図9 モンシロチョウ幼虫発生圃場率の年次推移（6月中旬）

農作物病害虫発生現況情報（6月） ねぎ編

1 さび病

(1) 6月下旬の巡回調査では、発生が確認されなかった (図1)。

2 べと病

(1) 6月下旬の巡回調査では、発生が確認されなかった (図2)。

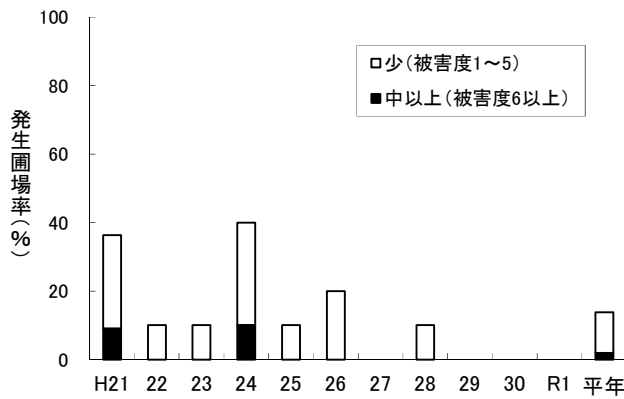


図1 さび病の発生圃場率の年次推移 (6月下旬)

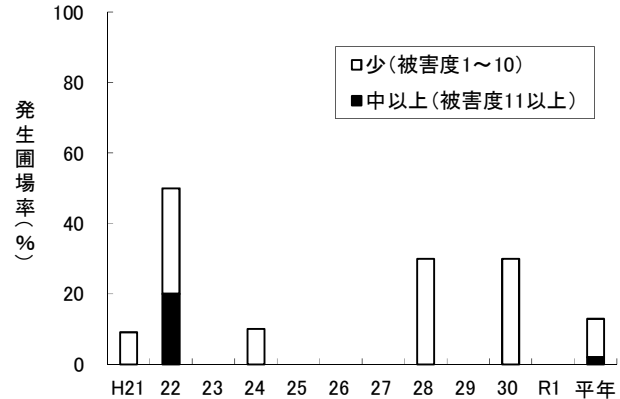


図2 べと病の発生圃場率の年次推移 (6月下旬)

3 黒斑病・葉枯病

(1) 6月下旬の巡回調査では、発生が確認されなかった (図3)。

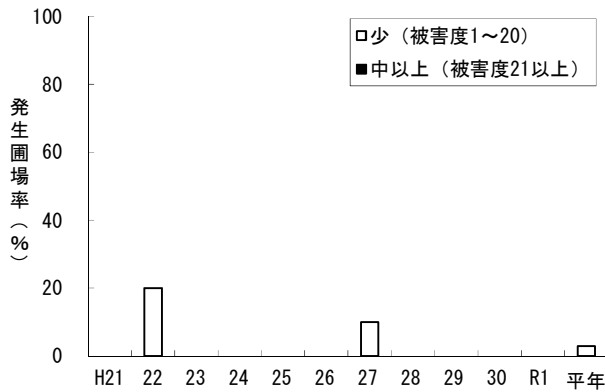


図3 黒斑病・葉枯病の発生圃場率の年次推移 (6月下旬)

4 ネギコガ

(1) 6月下旬の巡回調査では、発生圃場率は平年並であった(図4)。

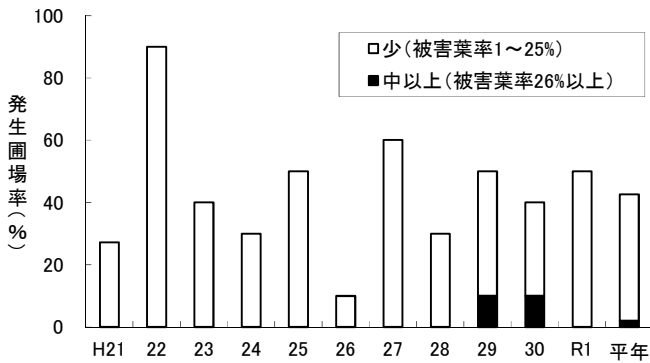


図4 ネギコガの発生圃場率の年次推移 (6月下旬)

5 ネギハモグリバエ

(1) 6月下旬の巡回調査では、発生圃場率・程度ともに平年より高かった(図5)。

6 ネギアザミウマ

(1) 6月下旬の巡回調査では、発生圃場率・程度ともに平年より高かったが(図6)、多発年(H27)と比較して、被害の大きい圃場は少ない。

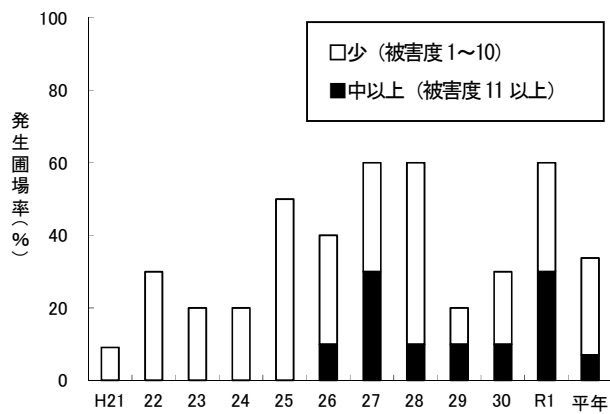


図5 ネギハモグリバエの発生圃場率の年次推移 (6月下旬)

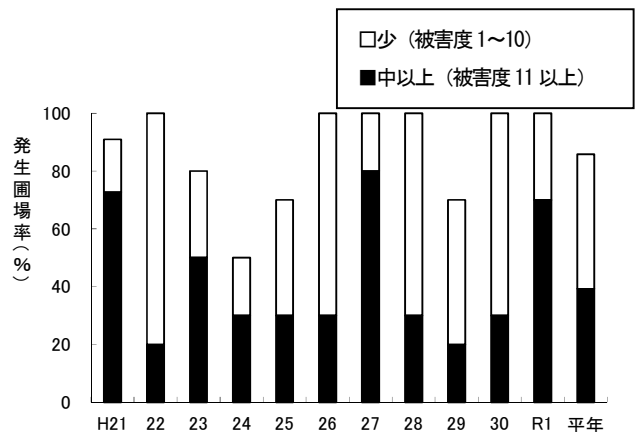


図6 ネギアザミウマの発生圃場率の年次推移 (6月下旬)

農作物病害虫発生現況情報（6月）りんどう編

1 葉枯病

(1) 6月下旬の巡回調査では、発生圃場率は平年より低かった（図1）。

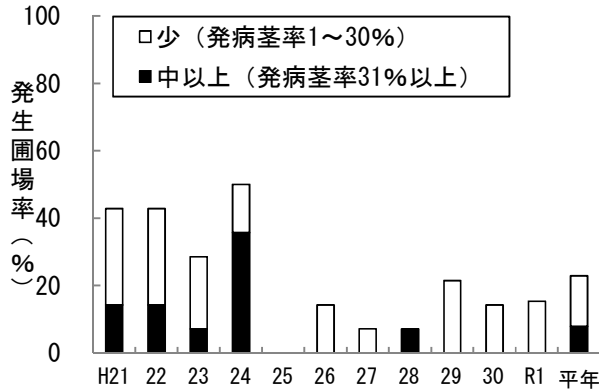


図1 葉枯病の発生圃場率の年次推移 (6月下旬)

2 ハダニ類

(1) 6月下旬の巡回調査では、発生圃場率は平年より低かった（図2）。

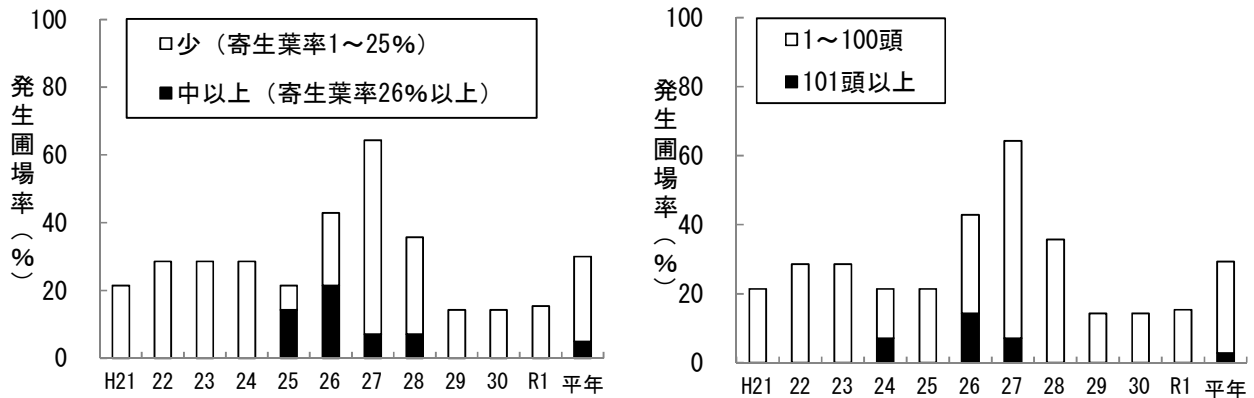


図2 ハダニ類の発生圃場率の年次推移 (左：寄生葉率、右：寄生虫数/80葉中、6月下旬)

3 リンドウホソハマキ

(1) 6月下旬の巡回調査では、潜葉痕の発生圃場率は平年より低く、生長部および茎部被害の発生圃場率は平年より高かった（図3）。

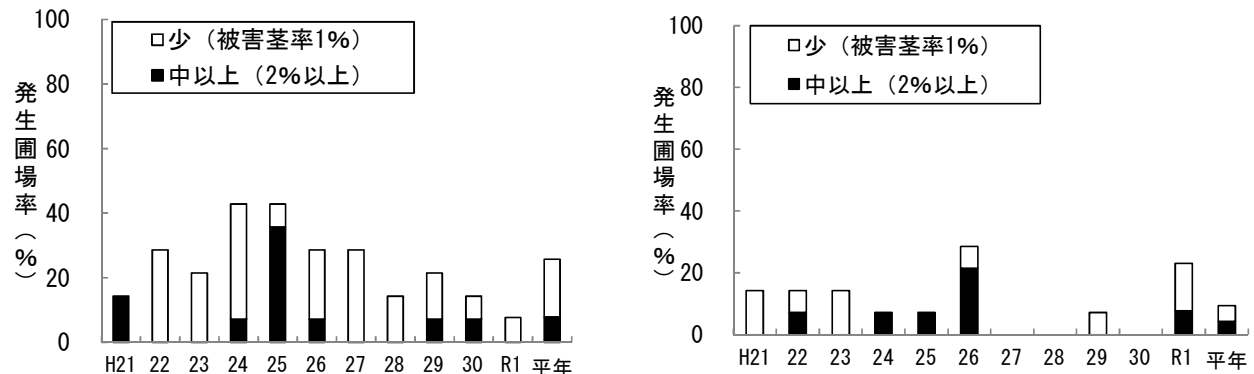


図3 リンドウホソハマキの発生圃場率の年次推移 (左：潜葉痕、右：生長部・茎部、6月下旬)